

きん じょう てん か
錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
10月11日発行 NO.19
文責 出崎 友英

魔法をかけるしぐさ

ある朝の出来事です。

私は学校の正門付近を掃除していました。正門前の横断歩道を渡ろうと一人の生徒が立っていました。通りがかった車が停まって来て、その生徒が横断することができました。すると、その生徒は横断歩道を渡った後で、停まってくれた車に向かってべこりとおじぎをしたのです。私はその生徒のすてきなしぐさに、とてもうれしくなりました。

そして以前読んだ文章を思い出しました。それは「魔法をかけるしぐさ」と題された文章です。

「魔法をかけるしぐさ」 佐川 孝

もう十年以上も前の事なのに、今でも頭の中に写真のワンカットのように一人の少年の姿が焼き付いている。

私は仕事の帰り道、長時間の運転で疲れていた。町名も知らない、ある押しボタン式の信号が赤になり停車した。

「間が悪いな」と思いながら、不機嫌に舌打ちした。

私の車は前から三台目で、最初誰が止めて渡っているのかわからなかった。横断歩道の半分程過ぎて、子どもが急ぎ足で渡っているのが見えた。

年格好は小学校の二、三年生ぐらいだろうか。信号が赤なのだからしかたなく、私はいらだつ目つきで見守っていた。ア

次の瞬間、私は驚いて目をみはってしまった。

おじぎをしたのだ。その少年は横断歩道を渡り切ると振り向いて停まっている左右の車に向かい、腰を曲げていねいなおじぎをしてくれた。少年の気持ちが「ありがとうございました」と伝わってくるしぐさだった。

信号が青になり、対向車の人の顔が見えた。誰もがにこやかに笑っていた。私の疲れていらついていた気持ちも、魔法にかかったように晴れ晴れとした何とも快いすがすがしいものに変っていた。顔も自然にほほえんでいた。そして、先程までの自分勝手な思いを恥じた。

運転の道々でその少年の姿が目には浮かび、知らず知らずの内に私の顔はほころんでいた。

また、その時私の頭に思い浮かんだ事があった。

それは、あの少年を育てた親御さんの事だった。きちんとしたしつけをして、立派に育てていることに深く感心して、私は胸の中で何度もうなずいた。今の世の中、カサカサと音がする程に、ささくれ立った空気がはびこっている。でも、家族のあり方一つで公共心は自然に生まれてくるものだと思う。

それは、親が子を慈しみ、道徳を教え、叱る時は叱るといふ、ごくあたりまえのことであり、日々の暮らしの中にその答えは落ちていると思う。

AC ジャパン「作文コンクール」最優秀賞受賞作品 (2011 年度)



3年生の合唱コンクール

10月10日(木)、3年生の合唱コンクールがありました。この数年は各クラス自由曲1曲でのコンクールでしたが、今年度は各クラス課題曲と自由曲の2曲ずつを披露することとなり、とても聴きごたえのあるコンクールになりました。どのクラスも、短い練習期間でよくここまで仕上がったものだと、とても感心するような出来栄でした。

ステージ上の生徒たちを見守る担任の先生方の姿も、それぞれとても印象的でした。3年生の皆さん、すてきな歌声をありがとうございました。



◆お知らせ・お願いです。

○10月8日(火)の登校時間帯に、「**薬物乱用防止キャンペーン**」の一環でライオンズクラブの皆様から生徒たちにチラシを配布いただきました。シンナーや覚せい剤、大麻などの薬物の害から青少年を守ることは、青少年の健全育成や安心・安全な社会づくりのためにとても大切なことです。ご来校いただいたライオンズクラブの皆様、ありがとうございました。

○明日から**3連休**です。今週は「錦文化の日」に向けた準備や練習で普段以上に中身の濃い一週間だったと思います。また、気候の変化も大きく、体調を崩しやすい状況です。この連休を有効に使うって体調を整えるなど、有意義な連休にしてください。



本気でやっていたら、
きっと誰かが助けてくれる。「先生のコトバ集」より